

先輩からのメッセージ



～30周年記念イベント後にいただいた、先輩からの温かいメッセージをご紹介します～

30周年記念食事会に出席いただいた方に、広報誌を送らせていただいたところ、数名の方からメッセージをいただきました。

一部となりますが、ここにご紹介いたします。



2018年9月、久しぶりに大分空港に立った。30周年記念の会に出席するために。私の要約筆記の原点は陽ざしの会である。活動中、バリアフリーコンサートのメンバーと出会い、ずっと交流がある。

記念の会で現在の様子を伺い、当時会長の河野さん、講師の池邊さん、同期、後輩たちとの昔ばなしに時を忘れた。今でも区「言の葉」で活動中。歴史を重ねて求められるものは変化しつつあるが、基本理念はどこでも同じと考える。更なる皆様の力を信じ、ご活躍を祈念している。

早田 久仁子

先日は、「陽ざしの会創立30周年記念食事会」にお招きいただき大変お世話になりました。お陰様で懐かしく楽しい時間を過ごすことができました。現役会員の皆さんのそれぞれ個性あふれる活躍を目にして「陽ざしの会」のこれからを頼もしく感じたことでした。要約筆記を一人でも多くの方に知っていただき、広まり、気軽に利用してもらえる社会になればと願っています。

広報特集号・記念写真もありがとうございました。素晴らしい編集やコメント、カラフルな紙面に魅せられました。これからも広報活動続けられますようお祈りしております。お元気で。

引越しの後の

津田さん大阪日記

昭和59年に大阪から大分に転居した。当初大阪へ帰りたくて泣いていた。34年後その欲求はかなり薄れていたのだが、あるきっかけが私を帰郷へと駆り立てた。今思えば実にくだらないことだったが、新居が見つかり旧居がすぐ売れた。

動き出した船から降りることはできず、大阪市役所で要約筆記者登録をした。派遣元は大分と違って難聴者協会。サークルはいくつかあって、一つ目を見学しに大阪府聴障協や情報提供施設のある社会福祉会館へ行った。建物は古くて汚いし、部屋は陰気で寒々しい。大分のセンターを思い出して心の中で泣いていた。大分へ帰りたくて。これぞまさしく「大分の二度泣き」だ。

その会は御夫婦で運営されていた。前半は難聴者との交流会、後半が試験対策学習。会費のほとんどが部屋の利用料に消える。会長である統一試験合格者の奥様でさえ派遣はほとんどない等聞いてまた泣けた。更にある大阪支部役員会の情報保障を会がボラでしていると聞いて絶句。

新たな見学は続く。



陽ざしの会 & 大分県難聴者協会 合同新年会が開催されました！

2019年1月20日、JR九州ホテルブラッサム大分のレストラン「庭の食卓・四季」にて「陽ざしの会」と大分県難聴者協会の合同新年会が開催されました。

「陽ざしの会」からは8名、難聴者協会からは9名が参加しました。

開会のあいさつは難聴者協会の小倉会長。タブレットに文章を表示させながらお話する姿が印象的でした。

会の途中、くじ引き大会もあり、景品が当たるたびに



一喜一憂。景品の中には、陽ざしの会の梅崎さん手作りの水引もあり、ひそかに狙っていた女性たちが、男性に当たるのを見てがっかりしている姿も見られました。

初対面の方とも会話が弾み、和気あいあいとして楽しい会でした。また来年も開催できたらよいですね。

(南波 史恵)



元号が変わる記念の年の合同新年会。初めての顔ぶれもあり、とても楽しく交流できました。進行や準備など、陽ざしの会におんぶにダッコなところもありましたが、これからもお互いに出ることを協力しあって、それぞれの活動を大きくしていきたいと思っています。

今年は、9月の福祉講演会の他、フェイスブック講座も参加対象を広げて開催していきます。要約筆記と難聴者協会が多くの市民に関心を持ってもらえるように頑張りましょう。

(大分県難聴者協会 会長 小倉 鉄郎)

